

「スポーツの実施状況等に関する世論調査」における運動・スポーツと日常生活における多様な身体活動の関係について

(現 状)

- ▶ スポーツ庁が毎年実施している「スポーツの実施状況等に関する世論調査」は、日常とは切り離された運動・スポーツの実施状況について調査し、スポーツ実施率等を算出している。

(注)例えば、「ウォーキング」には、通勤・通学における徒歩などは含まない想定

- ▶ 働き世代や子育て世代の運動・スポーツ促進が課題となる中、日常生活における身体活動※も運動・スポーツとして捉えてはどうかという意見が出されている。

※日常生活における身体活動の例

- ・通勤・通学、買物、家族の送り迎えに伴う移動(自転車、徒歩)
- ・家事(掃除、洗濯、料理等)
- ・子どもの世話(遊び相手、抱っこ等)
- ・介護

(参考)これまでの健康スポーツ部会で出された関連意見

- ・スポーツの定義、運動の定義絡みの点が少し気になりました。果たして答えている人が「運動していますよ」というときに、例えば通勤の途中で歩いている人というのは働き盛りではかなりいて、運動をやっている人はいるような気がするんです。けれども、そういう生活の中での身体活動を運動・スポーツと捉えてない方たちがこの中に結構いたりすると、実態をこの数字が捉え切れてないという可能性はないのかなというのが気になりました。(第31回健康スポーツ部会)
- ・女性の場合は、さっきの通勤のお話も出たんですけども、家事も結構あります。家事も、言ってみれば仕事も、あとは、最近レンタサイクルとかも貸出しとか結構増えていますけれども、やっぱりそういう日常生活の運動というのは、もし健康というところを医療費の削減ということで考えたら、やっぱりスポーツとは言えなくても、そちらも例えば身体活動レベルを出してリスト化して、それも入れるというような工夫も一つかなと思います。(第31回健康スポーツ部会)
- ・スポーツの実施率というのは、さっき言った余暇の部分で大多数取られるんですけども、本当に身体活動の調査をやったときに、仕事とか移動というものがどれだけのインパクトがあるのかということも、これも調査研究の一つのテーマとしてやってみたらどうかかなとそんなふうに思います。(第31回健康スポーツ部会)

(論 点)

- ▶ **日常生活における身体活動について、スポーツ庁における運動・スポーツ実施率等の調査の中でどのように位置づけるべきか。**
 - (1) 日常から切り離された運動・スポーツと、日常生活における身体活動を同列で扱ってよいか(取り扱いに差を設ける場合、どのように差を設けるべきか)
 - (2) 仮に、日常生活における身体活動を日常から切り離された運動・スポーツと同列に扱う場合、スポーツ庁が進める目的をもった運動・スポーツと方向性が異なるか
 - (3) 日常生活における身体活動を運動・スポーツとして捉えることは、働く世代や子育て世代に対する対策として有効か
 - (4) 仮に、日常生活における身体活動をスポーツ実施状況調査の対象に入れる場合、調査の継続性や第3期スポーツ基本計画の目標との関係をどう整理するか

- ▶ **国民に対するメッセージとして、どのように打ち出すべきか。**
 - (1) 日常生活を普通に送るだけで運動になると捉えられると、目的をもった運動・スポーツの促進にマイナス効果とならないか(どうすれば目的をもった運動・スポーツの実施にもつながるか)
 - (2) 逆にどのようにすれば、育児・介護・家事等で頑張っている人たちへの応援メッセージになるか
 - (3) スポーツといった場合、競技性のあるものを想起しやすい中で、スポーツを実施していない層や運動に苦手意識を持つ層に、運動・スポーツのハードルを下げ、参加を促すためには、どのような打ち出し方が有効か